

## 彫刻家藤森民雄さんに大使を委嘱

3月15日(水) 縄文ふるさと大使委嘱式

市では、彫刻家藤森民雄さん(宮川出身)を12人目の茅野市縄文ふるさと大使とする委嘱式を行いました。藤森さんは、横浜国立大学の教授として教鞭をとる傍ら、数々の美術講座の講師や講演、美術展の審査員を務めています。

大使がそれぞれの名刺に記す、茅野市に対する思い「わたしのChino Only」は「縄文は創造の源泉」です。藤森さんは、子どもの頃に土器や矢尻を拾い、形を見て創造を膨らませたことや茅野市の風土が今の制作活動に影響していると話していました。

### プロフィール

藤森 民雄 1954年(昭和29年)宮川田沢生まれ  
肩書・職業：彫刻家・新制作協会会員  
横浜国立大学教育学部教授・東京造形大学、愛知県立芸術大学非常勤講師  
1980年、1982年、1984年 新制作協会展新作家賞受賞  
1985年 長野県美術展知事賞受賞  
2005年～ 茅野市美術品寄附等検討委員会委員長



## 茅野市でスケートをする子どもたちの目標に

3月17日(金) 小平奈緒選手 優勝報告

豊平出身のスピードスケート選手、小平奈緒選手が、ワールドカップと世界スプリント選手権での総合優勝の報告に茅野市役所を訪れました。小平選手は「良い成績を残すことができた。これも茅野市民の皆さんの声援のおかげかな」と語りました。今シーズン500メートルでは出場したレースで全勝している小平選手。「来シーズンに平昌五輪を控え、この成績を持って臨むが、私自身のスタイルを崩さずスケートに向き合っていきたい」と力強く話していました。



## 大規模災害に備えて

3月17日(金)・30日(木) 災害時応援協定書締結式

災害時における応援・協力について関係団体と協定書の締結を行いました。

- ・災害発生時における住民生活の早期安定ならびにその発生に備えた地域防災力向上を図る目的で「防災・減災に関する応援協定」を(公財)日本財団と6市町村
- ・大規模土砂災害等発生時の減災活動や災害対応等を円滑に進めることを目的で「大規模土砂災害等に備えた相互協力に関する協定」を国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所と茅野市



## ちょっとした空地でも楽しい遊び場に

3月25日(土)

ぼくらのプレイパークin諏訪東京理科大学

茅野市ぼくらの未来プロジェクトでは、諏訪東京理科大学を会場に「ぼくらのプレイパーク」を開催しました。理科大学を会場に開催するのは初めてでしたが、市内外から約150人が来場しました。子どもたちは、立木の間に設置されたハンモックに乗ってとび跳ねたり、ノコギリや金づちを使って自由に工作をしたりと、ちょっと危ない、でもやってみたいと思う遊びをおもいっきり楽しんでいました。

## まちの話題を見る

# フォトニュース

## おいしい味噌、今年も仕込み

2月23日(木)・24日(金)

農村女性ネットワークちの味噌作り

「農村ネットワークちの」では、今年度自分たちで栽培し、収穫した大豆約400キロの内、180キロの大豆を使用して約700キロ分の味噌の仕込みを行いました。この味噌造りは4年目で、参加者は、大釜でゆでた大豆を手際よく味噌ひき機ですりつぶし、米こうじと塩を混ぜ合わせていました。大豆から自分たちの手で作った味噌は味も良く、熟成する年末頃を楽しみに作業していました。



## 2年連続全国制覇!

2月28日(火)

茅野北部中学校スピードスケート部全国優勝報告会

2月4日から2月7日にかけて第37回全国中学校スケート大会が長野市エムウエーブで開催されました。この大会の学校対抗女子の部で、2年連続5回目の優勝を果たした北部中学校のスケート部員が柳平市長のもとを訪れ、喜びの報告を行いました。市長は「全国の舞台で存分に力を発揮してくれた」「学校の先輩でもある小平奈緒選手に続いてほしい」と今後の活躍にも期待していました。

## フリーマーケットを楽しもう

3月4日(土)

ゆいわーく茅野フリーマーケット

市民活動センター「ゆいわーく茅野」では、フリーマーケットを開催し多くの人で賑わいました。子ども用品や日用品、クラフト品や似顔絵コーナー、体験コーナーなど多彩なブースが並びました。来場者は、お気に入りのブースを見たり、値段交渉をしたりしながら買い物を楽しんでいました。



## 防災行政無線デジタル化完了

3月6日(月)

デジタル防災行政無線整備工事竣工検査

昭和59年にアナログ防災行政無線局を開局して以来、老朽化が問題となっていた防災行政無線をデジタル化する工事が完了し、最後の竣工検査が本町公民館で行われました。この事業は平成26年度からの3年計画で、総事業費9億9360万円(交付税措置あり)。今回のデジタル化により、災害時に市役所と直接交信ができる子局が市内に102局整備されるなど、情報伝達環境が強化されました。